

医薬品安定供給を考える

医療用医薬品不足の現状と問題点

日本医師会常任理事

宮川政昭

2023年10月6日記者会見

医療用医薬品の供給問題

世界的に医療用医薬品の供給不足が問題になっている

しかしながら
日本のように大規模かつ長期間にわたって
供給不足が続いている先進国はない

供給不足は後発医薬品だけの問題ではない
医薬品の製造能力の低さやサプライチェーンの弱さは
日本の医薬品全体にもかかわる問題である

対応や対策を考えなければならない事項

I 医薬品供給不安

後発医薬品の供給問題

偏在が助長される原因

医薬品の「製造管理・品質管理」と「安定供給」

共同開発・委託受託の問題点

II 医薬品流通

サプライチェーン強靱化、医薬品取引 卸

医薬品カテゴリー別議論、バイイングパワー

III 業界再編

地域医療を行っている

一人ひとりの医師では解決できない

医薬品に関わる諸問題として
医薬品供給問題の
対応が求められていることに
どのように対応や対策をするか

これらはパッケージで考えなければならない

解決にむけて全ての課題に
総合的な考えの中で構築しなければならない

現状では、道半ばであり
本当の解決には数年かかる

I 医薬品供給不安

「供給不安」の事象の変遷

小林化工・日医工問題に端を発した「製造管理・品質管理」に起因する問題

品質
問題

販売承認書と製造実態の齟齬「自主点検」によって新たに発覚した問題
(長生堂・富士製薬工業・共和薬品等)

製薬関係全体のメーカーの行政処分
(岡見化学、廣貫堂、辰巳化学等)

業界
構造
全般

GEに関しては、「共同開発」「バイイングパワー」による問題

(少量多品種生産が問題なのではないが)日医工の200品目同時多発の
限定出荷等により、急激な増産体制が難しい点

委受託製造完全分離になって、どこで製造しているか、
製造のキャパシティがあるのかが不明となっている点

2019

2020

2021

2022

2023

コロナ
関連

新型コロナ感染拡大による
諸外国ロックダウンに伴う原薬入手問題

新型コロナ感染拡大による「解熱鎮痛剤」の買い占めの問題

その他

ウクライナ情勢による「エネルギー問題」
によるヨーロッパからの供給不安の問題

日立物流センター火災に伴う影響
(大原薬品、日本GE)

品質確保・安定供給に向けて

- 後発医薬品をはじめとした医薬品の供給不安は、日医工や小林化工などの企業の相次ぐGMP違反に伴った、行政処分に端を発し、後発医薬品を中心とした供給不足が顕在化した。
- 今もなお、多くの品目が出荷停止の状況にあり、供給不安が続いている。
今、まさか大手の後発品企業からこうしたGMP違反があるとは…
- 一連の問題の背景はかなり深刻である。
- 品質確保・安定供給に向けて各企業は努力しているが、取り組みの内容や法令順守意識に差があるのが現状である。
- その背景には、地政学的な影響、新興感染症の影響、災害などもさまざまに関連している。

他社の供給によるカバーは難しい

- 先発医薬品の成分内シェアが大きかった時代は、少ない後発医薬品内のシェアを各社で享受していたため、1社に何か問題が起き供給が止まっても他社で供給をカバーできていた。
- しかし後発医薬品の数量シェア80%に達した現在は1社が供給停止になると他社の供給分でカバーするのは難しい。
- そのためバックアップ体制の重要性が以前よりも高まっている。
- いつまでも、「他社事情による限定出荷」という言い訳は問題。

業界の現状

- 後発医薬品業界は政府が主導する促進策によって右肩上がりの成長を続けていたが、数量シェア80%に達した今、成長の伸びしろが少なくなり売り上げの伸びが鈍化している。
- 薬価の下落が早まることで、収益の悪化が見込まれる。
- 薬価が下がり不採算品となっても他社への代替が見つからない限り販売をやめられないため、不採算品の割合が年々増えていく。
- 薬価調査を前にすると、出荷調整をして、増産しない。
- 社会のインフラとして、医療現場で欠かせない存在になっており、シェアの拡大とともに、後発医薬品企業の供給責任は増している。

対応の大原則として…
品目数を少なくするという国の方針は間違っている

後発医薬品業界は
供給量の増大、多品種大量生産の可能性を
考えなければならない

小規模生産しかできない企業は
大規模生産を可能にする投資などが無理であれば
複数社で同一成分をまとめて生産するなど
抜本的な意識改革が必要である

需要の少ない希少疾病用医薬品でも
大量に使われる医薬品でも考え方は同じである
それぞれの医療ニーズに照らし合わせて
必要量を満たすだけでなく
余剰分も作らなければならない

十分な製造能力と継続的な供給計画

- 新規品目の上市に際し、企業の市場参入に対して、何らかの要件を求めるべきなのかもしれない。
- 十分な製造能力を確保していることや、継続的な供給計画を有していることなど、安定供給を担保する一定の要件などが必要である。
- 医薬品の安定供給は、参入した以上、最低限満たすべき条件であるべきである。
- 構造的に業界全体として安定供給が実現できない現状を踏まえて、きちんと安定供給できる企業を差別化し、適正な価格評価をしていくのが業界構造の本来あるべき姿である。

医薬品の「製造管理・品質管理」と「安定供給」
GMP(製造管理、品質管理)と GQP(品質保証)

法令違反に起因した品質問題を
徹底して洗い直して
対策を取らなければならないが
具体的に対応策はどのように考えているのか

今後とも注視していかなければならない

GMP (Good Manufacturing Practice)
GQP (Good Quality Practice)

偏在が助長される原因

共同開発の問題点

委受託製造の問題点

共同開発から発した諸問題

- 後発医薬品の使用促進が掲げられるなかで、共同開発により、必ずしも十分な製造能力を確保できない多くの企業が新規品目を上市した。
- その結果、多くの企業が参入したため、品目が増加した。
- 製品として差別化ができずに結果として価格競争に走り、市場実勢価格に基づき、薬価が下落した。
- 少量多品種生産により、供給能力に余剰がないために、バックアップ体制が維持できず、供給不安が長引いたことも考慮しなければならない。
- 長い期間販売する製品の赤字を、新規収載品で得られる利益でいわば穴埋めする構造に陥っていた。

医薬品の委受託製造問題点

後発医薬品では全体の4分の3(75.3%)が他社への製造委託

先発医薬品企業にとっては自分で製造しなくても後発医薬品を販売でき後発医薬品市場に外資系企業や新薬系企業の参入が相次いだ

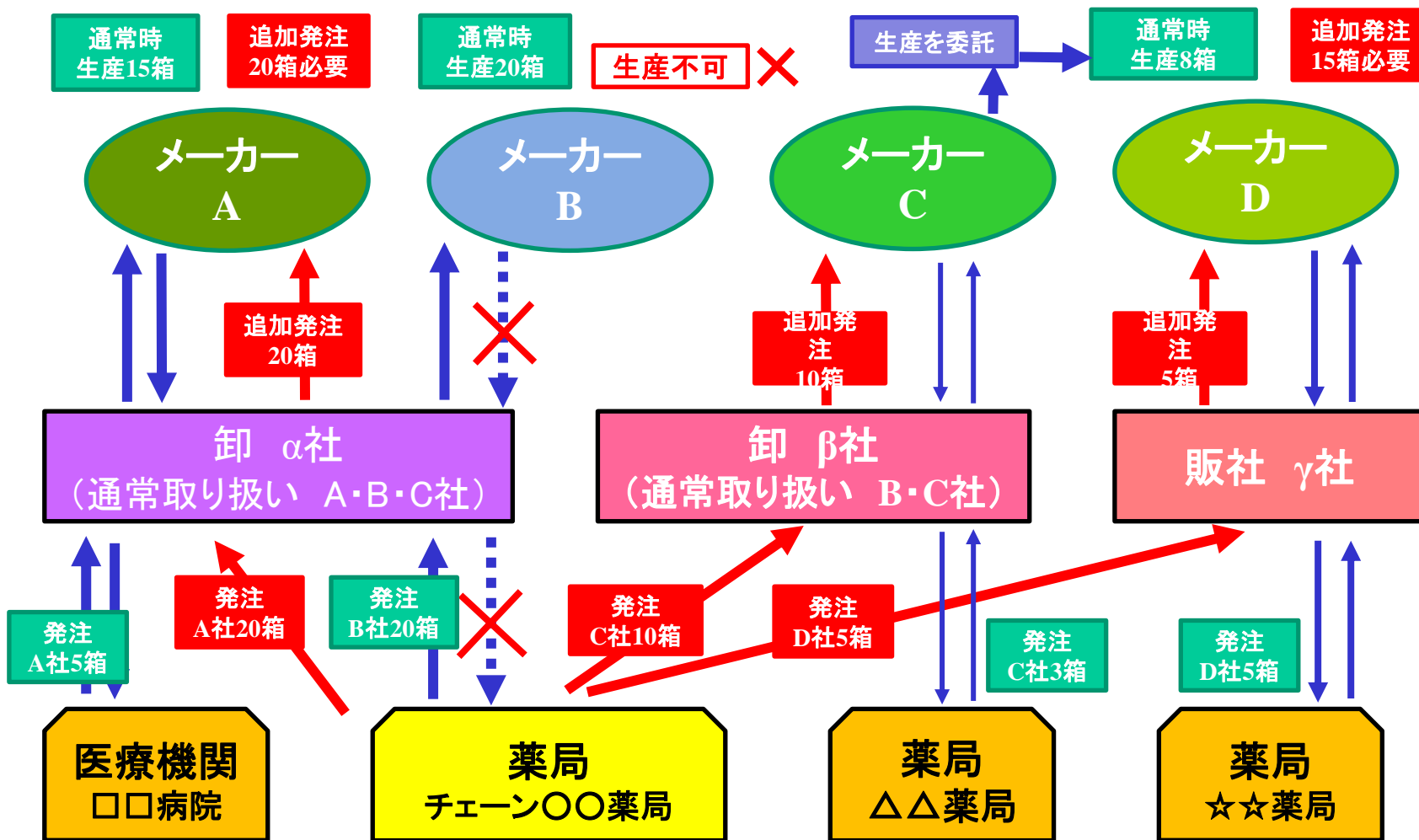
**2005年の薬事法改正以降
後発医薬品市場に多くの新たな企業が参入したと同時に
新薬系企業を中心に撤退が相次いだ**

**新薬系企業は他社に委託製造していたために
自前の設備を持っていなかったため撤退を容易にしたと考えられる**

**相次いだ企業参入は価格競争の激化と同時に
自社製造していないことが安定供給リスクとなった
国は後発医薬品の促進政策のみで製造能力の確保や
市場での健全な価格競争を促す政策推進を怠っていたといえる**

偏在が助長される原因（イメージ）

青: 通常時のルート
赤: 供給不安時のルート



1機関でも重複発注すると上記のようになる。複数だとさらに状況は悪化する。

**共同開発の問題点や
委受託製造の問題点**

これらに対する対応策を具体的に示してほしい

II 医藥品流通

サプライチェーン強靱化へ

- 効果的な支援措置につなげるために
物資サプライチェーンマップの作成
- 原材料などの調達量、調達元、外部依存度
- 想定される供給途絶要因
- 国内生産量、国内向け供給量/輸出量、主な供給先
- 緊急時の代替調達可能性
- 国内・世界市場のシェア
- 供給上の課題・対応

国も踏み込んだ関与を

医療用医薬品の安定確保の責務は
一義的には製造販売業者が負ってはいるが
医療現場で重要な役割を担う医薬品については
国としてもより踏み込んだ関与が必要

サプライチェーンの複数化や
国内生産に対する国の支援については
予算措置も含めて検討が必要

国際的に厳しいとされる
日本の品質規格・基準の見直しも必要

適正な医薬品流通

流通については構造的課題が・・・

- 流通については構造的課題だとし、長年議論しているが、解決の糸口さえ見出していない。
- 医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会でも薬価差が論点として議論された。
- 医薬品の価格のバラつきについては、都市部と離島の配送コストなどを配慮すれば、取引条件の違いからも当然の結果である。
- その中で最大の問題点は、薬価差を得ることを目的とした値下げ交渉によりさまざまな事象が生まれてくることである。

薬価低下

- 医療機関や薬局の納入価の下落に引きずられて薬価も毎年下がることになる。
- 多額のコストをかけて新薬を開発しても、将来的に開発費を回収できないリスクがあり、日本で発売をしない「ドラッグロス」の原因になっているとの指摘がある。
- 一方で、品薄になっている後発医薬品の中にも、相次ぐ改定で原価割れの品目も多く、生産中止により日本で使えない製剤が出てくることも懸念される。

大幅な値引き

- 大型チェーン薬局や価格代行業者(ボランタリーチェーン)が価格交渉に力を入れるなかで、大規模化して、薬価差追及が常態化し、大幅な値引きをしている現状は制度の趣旨から見てやりすぎではないかと問題意識が出てくるが、何らかの具体的な対応策はどうするのか。
- 有識者検討会の報告書では、こうした実態を調査したうえで、海外でクローバックや公定マージンが導入されていることも踏まえ、流通の改善など、過度な薬価差の偏在の是正策を検討、薬剤流通安定のためのものとされている調整幅について、流通コストの状況等を踏まえ、どのような対応を取り得るか検討としたとされるが、具体的な動きがみられない。

ガイドラインの強化から

- 医療用医薬品の流通の改善に関する懇談会において、2023年6月より「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」の強化に向けて検討が始まった。
- オーフアンドラッグの増加や後発医薬品の浸透など、カテゴリーチェンジが起きるなかで、医薬品特性に応じた取引体系とする必要性を指摘する声が複数上がった。
- 安定確保医薬品やオーファンドラッグなど医療上必要性の高い医薬品も総価取引とされるなかで、新薬・長期収載品・後発医薬品に区別した“医薬品カテゴリー別”で議論する必要性があると指摘されたが、その後の具体的な動きはどのようになっているのか。

オーソライズド・ジェネリックの問題点

オーソライズド・ジェネリック(AG)の問題

- AGは明らかに1物2価であり、今後中医協で議論の必要がある。
- AGについて、後発医薬品の健全な競争を阻害し、薬価を高止まりさせるおそれがあり、排除すべきである。
- 長期収載品依存、市場競争のゆがみ(AGによる寡占)を助長している。
- AGを阻止するためのルールを設けるべきであるがどのように対応するのか。
- 先発医薬品企業がAGを開発しなくなるような強いペナルティーが必要ではないか。

Ⅲ 業界再編

後発医薬品業界に再編が必要

- 後発医薬品の使用促進と同時に長きにわたって課題とされてきたのが、業界再編である。
- 関係各所から幾度となく「企業数が多すぎる」と批判されつつも、なかなか集約が進まない状況にある。
- ただ、安定供給の問題が顕在化したこともあり、ここへ来て再編を念頭に置いた指摘や提案が有識者らから相次いでいる。

調査報告書から

- GE薬協の資料や後発医薬品使用促進ロードマップに関する調査報告書などによれば、現在後発医薬品の製造販売業者は約190社あり、約150社の承認品目は50品目以下、そのうち約80社は10品目未満という状況である。
- 成長期の事業モデルや産業構造からの脱却はもはや不可欠である。
- 厚生労働省は2021年に発表した医薬品産業ビジョンで、「企業がそれぞれの特色を活かして、自らの事業展開を考えていく必要がある」、「他社であっても製造所の実態を把握し、適切なGQPで製品が製造されているかを管理監督できるもののみが製造販売業者となるべき」と記載し、業界内での差別化のみならず安定供給のための淘汰・集約化の必要性も示唆した。

安定供給を図る上で

- 流通負担軽減の観点から、なぜこれほど品目数が多いのか問題にすべきであり、多くの企業品目が混在し流通負荷が増大している。
- 最大のネックは各社の製品構成が似ていて再編への力になりえない。
- 薬価上の措置を踏まえた中で、品質確保や安定供給活動を誠実にやっている会社をどう評価するかを考える必要がある。
- 安定供給を図る上で十分な体力を持っていない企業が存続するメカニズムになっていないか検討する必要がある。

後発医薬品の産業構造

- 後発医薬品の数量シェアが80%となり後発品市場全体の成長が鈍化する中、これまでのビジネスモデルによる経営が困難になっている。
- その上で構造的な問題を解決しなければ抜本的解決にはならない。
- 後発医薬品市場の課題として、参入障壁を下げたために多くの企業が参入し、市場シェアを獲得するための価格競争が激しくなり、頻回な薬価改定も相まって多数の赤字品目が発生している点がある。
- さらに、この赤字品目を補填するために新たに多数の後発医薬品を薬価収載して利益を賄う産業構造となっているものの、開発コストの増加や毎年薬価改定の影響で利益確保が難しくなっている。

売り逃げ企業を淘汰するしかない

- 新規後発医薬品を発売した後に安売りを繰り返し、数度の薬価改定を経て、薬価が下がったら供給量を減らし実質的に「売り逃げ」する中小企業が多い点が問題視されている。
- さらに、薬価の毎年改定導入で価格の下落速度が倍増したことや、日本では必要以上にハイスペックな後発医薬品が求められ、製造コストが高くなること、追い打ちをかけるように物価高で採算が悪化したことなど、経営環境が悪化している。

何らかのペナルティーとインセンティブ

- 特許切れ市場の健全な流通や競争を阻害する企業をふるいにかけるべきであり、そのため、国は在り方も含め具体策を考えるべき。
- 売り逃げ型の企業や、自社で製造せず、製造委託だけに過度に依存する企業など、安定供給体制に問題があると考えられるため、国は在り方も含め具体策を考えるべき。
- 安定供給し続ける優良企業には、何らかのインセンティブを講じるなど、国は在り方も含め具体策を考えるべき。

**大規模な製造設備を作るためには
ひとつひとつの企業が大きくなる必要がある**

**日本の医薬品企業は
海外に比べると小規模**

**業界再編で企業規模を大きくすることも
ひとつの手段として考えるべき**

集約化が必要

問題点のまとめ

医薬品入手の「常識が揺らいだ」

- 医薬品はいつでも手に入り、安く買えて当たり前という常識が揺らいだ。
- 国際情勢次第では、原料・原薬の供給も危うくなる。
- 医薬品の不正製造から供給問題を起こした後発医薬品業界には、政府として看過せず、再編やビジネスモデルの変革を促すような政策提案を国がまとめていかなければならない。
- 今の医薬品企業には自助努力で改革する余力がない。
- 急に変革を求めたら、企業がつぶれ、医薬品供給がさらに深刻化する恐れがあると躊躇してはいけない。

産業構造上の課題

- 後発医薬品の産業構造上の課題である。
- 先発からの置き換え率が80%に達し、これまでのような市場拡大を見込めない中で、後発医薬品の安定供給や品質を確保する観点から、今後の産業のあるべき姿を政府が示すべきである。
- 共同開発で後発医薬品市場に参入しやすくなり、製造を委託し、販売だけ行う企業が増えたことで、少量多品種生産と過当競争の状態が生じ不安定な産業構造になった。
- 品質や安定供給の確保が可能な企業が、より評価される仕組みも検討すべきである。
- 品質や安定供給の確保が可能な企業だけが参入できる仕組みにし、再編統合の促進策も検討すべきである。

バイインクパワー

- 医薬品の価値やコストを度外視した薬価引き下げが繰り返される問題は注視しなければならない。
- 大型チェーン薬局や価格交渉代行業者が、薬局の利益を追求するビジネスモデルは従来とは異なる「新たな薬価差問題」として問題は大きい。
- 価格交渉代行業者が過剰な値下げを求め、成功報酬として公的財源が使われることについて是正を図るべきであろう。

医療現場の実態は・・・

医薬品供給不足 緊急アンケート結果(速報)について

今般、不足している医薬品とそれを取扱っている卸はどこなのか、また、院外処方しても在庫不足している医薬品とその薬局がどこなのか、流通偏在はあるかなどの調査を実施し、調査結果を基に、国の検討会や対象業界団体に対して改善要望等を働きかけたいと考えております。

インターネット調査
日本医師会員及び地域医師会員

2023年8月9日(水)～9月30日(土)

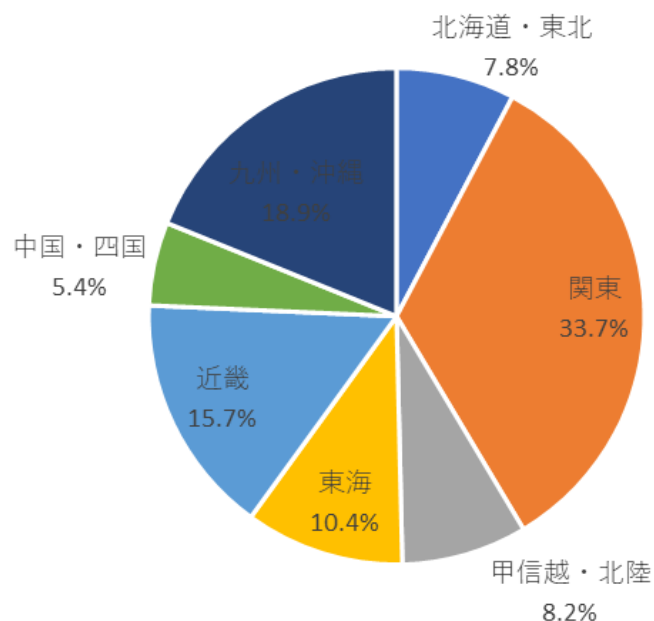
6,773医療機関
(※ 2023年9月30日(土)24:00までの回答分)

*** 速報値のため
最終結果時には数字等が変わる可能性があることをご承知おきください**

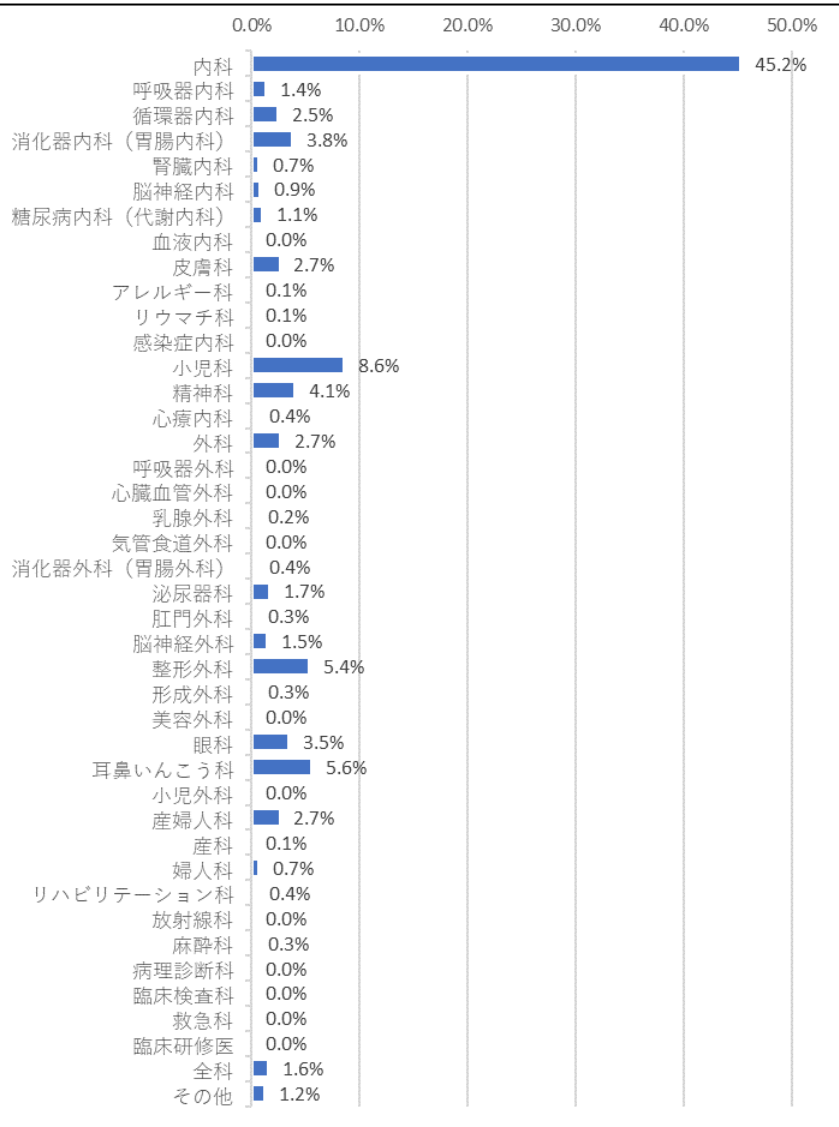
設問 1 - 1 医療機関の所在地の都道府県別の回答数

ID	エリア	都道府県	件数	%
1	1_北海道・東北	北海道	34	0.5%
2	1_北海道・東北	青森県	51	0.8%
3	1_北海道・東北	岩手県	179	2.6%
4	1_北海道・東北	宮城県	116	1.7%
5	1_北海道・東北	秋田県	31	0.5%
6	1_北海道・東北	山形県	49	0.7%
7	1_北海道・東北	福島県	65	1.0%
8	2_関東	茨城県	78	1.2%
9	2_関東	栃木県	120	1.8%
10	2_関東	群馬県	72	1.1%
11	2_関東	埼玉県	368	5.4%
12	2_関東	千葉県	260	3.8%
13	2_関東	東京都	554	8.2%
14	2_関東	神奈川県	829	12.2%
15	3_甲信越・北陸	新潟県	113	1.7%
16	3_甲信越・北陸	富山県	23	0.3%
17	3_甲信越・北陸	石川県	175	2.6%
18	3_甲信越・北陸	福井県	1	0.0%
19	3_甲信越・北陸	山梨県	135	2.0%
20	3_甲信越・北陸	長野県	108	1.6%
21	4_東海	岐阜県	17	0.3%
22	4_東海	静岡県	318	4.7%
23	4_東海	愛知県	284	4.2%
24	4_東海	三重県	84	1.2%
25	5_近畿	滋賀県	9	0.1%
26	5_近畿	京都府	151	2.2%
27	5_近畿	大阪府	432	6.4%
28	5_近畿	兵庫県	158	2.3%
29	5_近畿	奈良県	266	3.9%
30	5_近畿	和歌山県	47	0.7%
31	6_中国・四国	鳥取県	21	0.3%
32	6_中国・四国	島根県	98	1.4%
33	6_中国・四国	岡山県	22	0.3%
34	6_中国・四国	広島県	16	0.2%
35	6_中国・四国	山口県	80	1.2%
36	6_中国・四国	徳島県	17	0.3%
37	6_中国・四国	香川県	2	0.0%
38	6_中国・四国	愛媛県	11	0.2%
39	6_中国・四国	高知県	101	1.5%
40	7_九州・沖縄	福岡県	710	10.5%
41	7_九州・沖縄	佐賀県	88	1.3%
42	7_九州・沖縄	長崎県	96	1.4%
43	7_九州・沖縄	熊本県	89	1.3%
44	7_九州・沖縄	大分県	77	1.1%
45	7_九州・沖縄	宮崎県	39	0.6%
46	7_九州・沖縄	鹿児島県	124	1.8%
47	7_九州・沖縄	沖縄県	55	0.8%
合計			6,773	100.0%

エリア	回答数	%
北海道・東北	525	7.8%
関東	2,281	33.7%
甲信越・北陸	555	8.2%
東海	703	10.4%
近畿	1,063	15.7%
中国・四国	368	5.4%
九州・沖縄	1,278	18.9%
計	6,773	100.0%

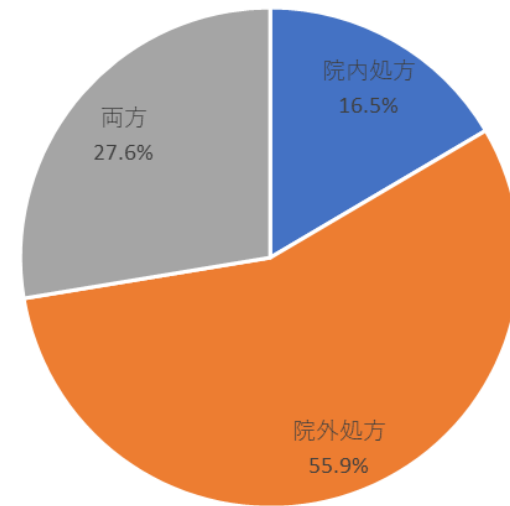


設問 1 - 2 主たる標ぼう診療科別の回答数



設問 1 - 4 処方箋の発行区分

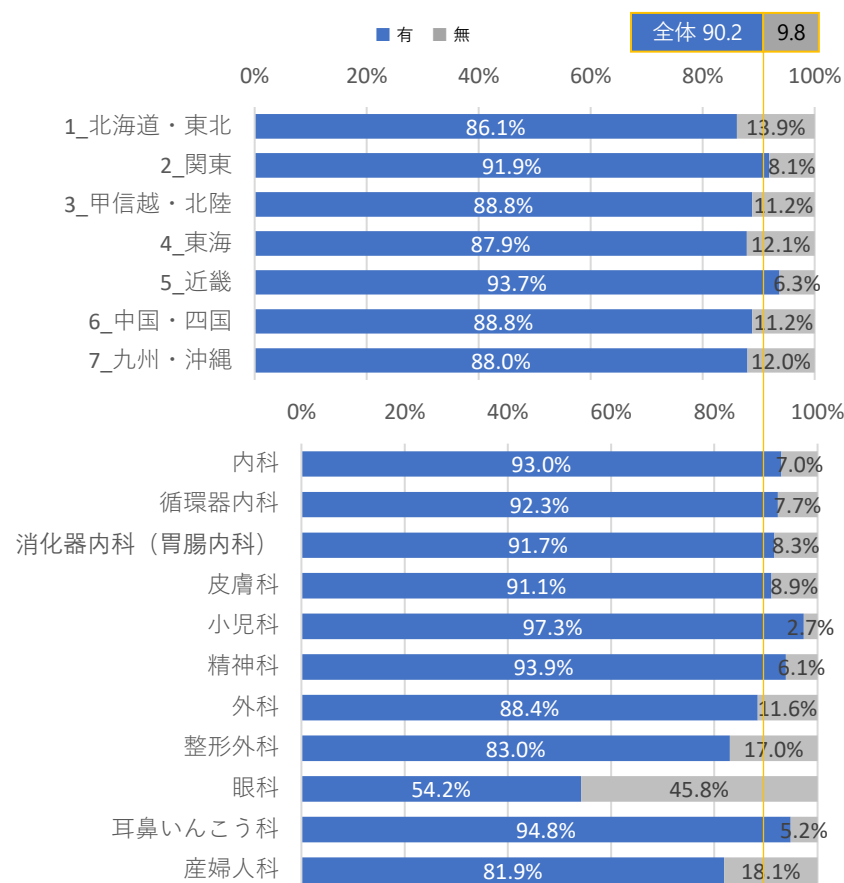
ID	処方箋発行	件数	割合 (%)
1	院内処方	1,119	16.5%
2	院外処方	3,784	55.9%
3	両方	1,870	27.6%
計		6,773	100.0%



設問 2 - 1 【院内処方】入手困難な医薬品の有無

ID	回答	件数	%
1	有	2696	90.2%
2	無	293	9.8%
合計		2,989	100.0%

		N	有	無
全体		2,989	90.2%	9.8%
エリア	1_北海道・東北	216	86.1%	13.9%
	2_関東	847	91.9%	8.1%
	3_甲信越・北陸	278	88.8%	11.2%
	4_東海	314	87.9%	12.1%
	5_近畿	588	93.7%	6.3%
	6_中国・四国	197	88.8%	11.2%
	7_九州・沖縄	549	88.0%	12.0%
診療科 (上位)	内科	1,465	93.0%	7.0%
	循環器内科	52	92.3%	7.7%
	消化器内科 (胃腸内科)	84	91.7%	8.3%
	皮膚科	56	91.1%	8.9%
	小児科	150	97.3%	2.7%
	精神科	147	93.9%	6.1%
	外科	95	88.4%	11.6%
	整形外科	171	83.0%	17.0%
	眼科	96	54.2%	45.8%
	耳鼻いんこう科	77	94.8%	5.2%
	産婦人科	155	81.9%	18.1%



※ 診療科は、上位11診療科を対象とした。

設問 2-2 【院内処方】医薬品供給不足が無い医療機関が 取引している卸名（主要な社名を1社だけ回答）

ID	社名（売上順）	件数	%
1	アルフレッサグループ	55	18.8%
2	スズケングループ	52	17.7%
3	メディセオ	35	11.9%
4	東邦薬品	25	8.5%
5	PALTAC		0.0%
6	あらた		0.0%
7	アステム	20	6.8%
8	ケーエスケー	5	1.7%
9	大木		0.0%
10	バイタルネット	12	4.1%
11	中北薬品	3	1.0%
12	ピップ		0.0%
13	アトル	19	6.5%
14	ほくやく		0.0%
15	翔薬	8	2.7%
16	エバルス	7	2.4%
17	セイエル	2	0.7%
18	モロオ		0.0%
19	サンキ		0.0%
20	九州東邦	4	1.4%
21	アスティス	1	0.3%
22	鍋林	2	0.7%
23	よんやく	1	0.3%
24	岩渕薬品	1	0.3%
25	リードヘルスケア		0.0%
26	中澤氏家薬業	7	2.4%
27	その他	34	11.6%
合計		293	100.0%

設問 2 - 3 【院内処方】入手困難な医薬品名一覧（2096品目の上位抜粋）回答品目延べ数は14204品目（1医療機関最大10品目まで回答可）

内注外区分	医薬品名	件数	薬効分類名
1 内用薬	メジコン錠 1.5mg	600	鎮咳剤
2 注射薬	トルリシチ皮下注 0.75mg アテオス	241	その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
3 内用薬	オーグメンチン配合錠 250RS	223	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
4 内用薬	PL配合顆粒	215	総合感冒剤
5 内用薬	フスコデ配合錠	205	鎮咳剤
6 内用薬	アストミン錠 10mg	199	鎮咳剤
7 内用薬	アスピリン錠 20	190	鎮咳去たん剤
8 内用薬	ムコダイン錠 250mg	184	去たん剤
9 内用薬	カロナール錠 200	157	解熱鎮痛消炎剤
10 内用薬	トランサミン錠 250mg	157	止血剤
11 内用薬	カロナール細粒 20%	151	解熱鎮痛消炎剤
12 内用薬	ムコダイン錠 500mg	151	去たん剤
13 内用薬	フスタゾール糖衣錠 10mg	131	鎮咳剤
14 内用薬	アダラートCR錠 20mg	128	血管拡張剤
15 内用薬	ブスコパン錠 10mg	109	鎮けい剤
16 内用薬	アスピリン錠 10	106	鎮咳去たん剤
17 内用薬	セレスタミン配合錠	102	副腎ホルモン剤
18 内用薬	カフコデN配合錠	98	鎮咳剤
19 内用薬	クエン酸第一鉄Na錠 50mg「サワイ」	92	無機質製剤
20 内用薬	シナール配合錠	91	混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）
21 内用薬	ピーエイ配合錠	91	総合感冒剤
22 内用薬	カルボシステイン錠 250mg「サワイ」	87	去たん剤
23 内用薬	カルボシステイン錠 500mg「サワイ」	83	去たん剤
24 内用薬	SG配合顆粒	81	解熱鎮痛消炎剤
25 内用薬	トリプタノール錠 10	81	精神神経用剤
26 内用薬	レスプレソ錠 20mg	77	鎮咳去たん剤
27 内用薬	アスピリン散 10%	74	鎮咳去たん剤
28 内用薬	フロモックス錠 100mg	72	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
29 内用薬	ムコソルバン錠 15mg	72	去たん剤
30 内用薬	カルボシステイン錠 250mg「JG」	71	去たん剤

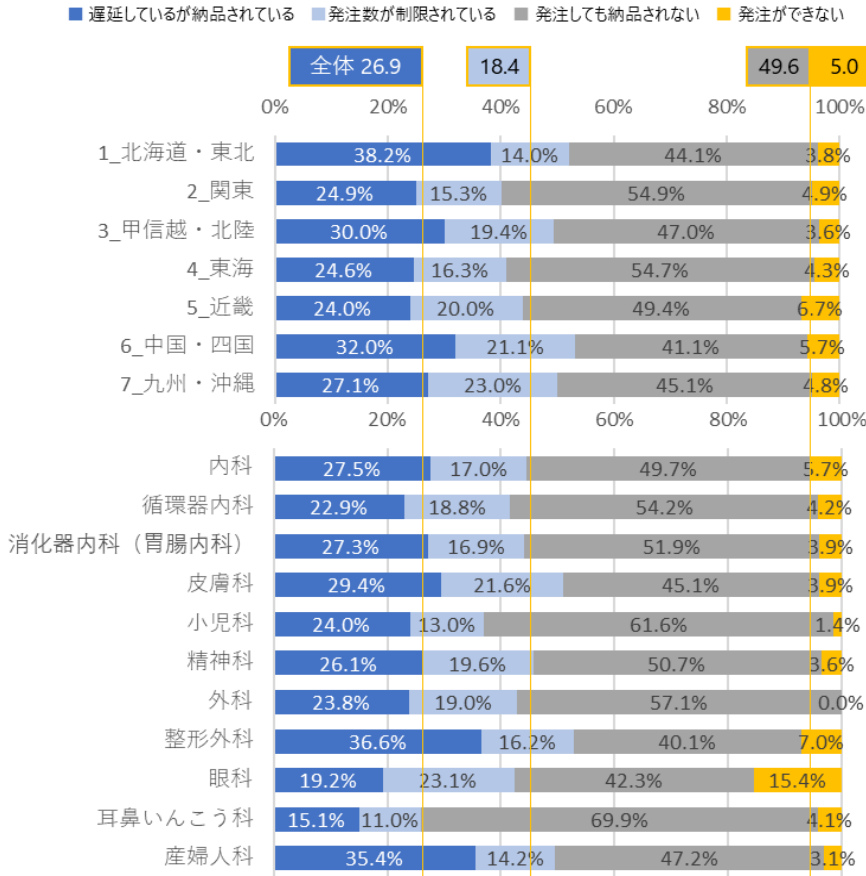
設問 2-3 【院内処方】 供給不足している医薬品を取引している卸名
(主要な社名を1社だけ回答)

ID	社名 (売上順)	件数	%
1	アルフレッサグループ	3045	21.4%
2	スズケングループ	2161	15.2%
3	メディセオ	2394	16.9%
4	東邦薬品	1192	8.4%
5	PALTAC	0	0.0%
6	あらた	1	0.0%
7	アステム	592	4.2%
8	ケーエスケー	386	2.7%
9	大木	0	0.0%
10	バイタルネット	294	2.1%
11	中北薬品	241	1.7%
12	ピップ	0	0.0%
13	アトル	553	3.9%
14	ほくやく	39	0.3%
15	翔薬	351	2.5%
16	エバルス	126	0.9%
17	セイエル	138	1.0%
18	モロオ	22	0.2%
19	サンキ	111	0.8%
20	九州東邦	222	1.6%
21	アスティス	81	0.6%
22	鍋林	58	0.4%
23	よんやく	46	0.3%
24	岩淵薬品	108	0.8%
25	リードヘルスケア	0	0.0%
26	中澤氏家薬業	70	0.5%
27	その他	1973	13.9%
合計		14204	100.0%

設問 2 - 4 【院内処方】卸に発注した医薬品の納入状況（一つだけ選択）

ID	納入状況	件数	%
1	遅延しているが納品されている	718	26.9%
2	発注数が制限されている	492	18.4%
3	発注しても納品されない	1327	49.7%
4	発注ができない	135	5.1%
合計		2,672	100.0%

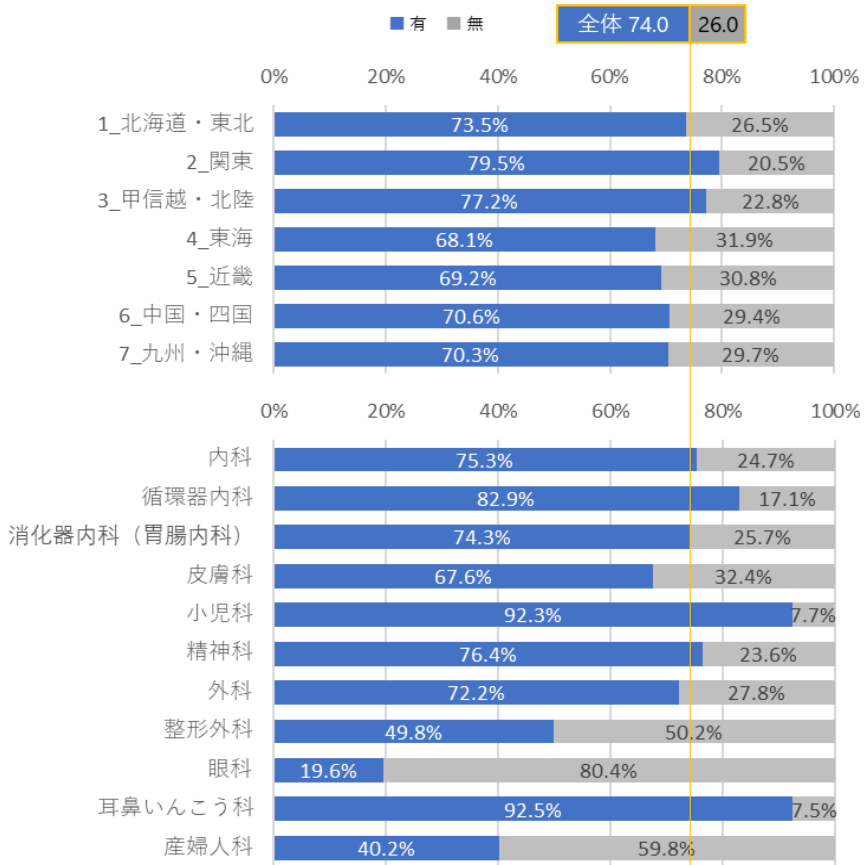
		N	納遅品延 さし れて いる が	制発 限注 さ れ が て い る	納発 品注 さし れ て な い	発 注 が で き な い
全体		2,696	26.9%	18.4%	49.6%	5.0%
エリア	1_北海道・東北	186	38.2%	14.0%	44.1%	3.8%
	2_関東	778	24.9%	15.3%	54.9%	4.9%
	3_甲信越・北陸	247	30.0%	19.4%	47.0%	3.6%
	4_東海	276	24.6%	16.3%	54.7%	4.3%
	5_近畿	551	24.0%	20.0%	49.4%	6.7%
	6_中国・四国	175	32.0%	21.1%	41.1%	5.7%
	7_九州・沖縄	483	27.1%	23.0%	45.1%	4.8%
診療科 (上位)	内科	1,363	27.5%	17.0%	49.7%	5.7%
	循環器内科	48	22.9%	18.8%	54.2%	4.2%
	消化器内科（胃腸内科）	77	27.3%	16.9%	51.9%	3.9%
	皮膚科	51	29.4%	21.6%	45.1%	3.9%
	小児科	146	24.0%	13.0%	61.6%	1.4%
	精神科	138	26.1%	19.6%	50.7%	3.6%
	外科	84	23.8%	19.0%	57.1%	0.0%
	整形外科	142	36.6%	16.2%	40.1%	7.0%
	眼科	52	19.2%	23.1%	42.3%	15.4%
	耳鼻いんこう科	73	15.1%	11.0%	69.9%	4.1%
	産婦人科	127	35.4%	14.2%	47.2%	3.1%



設問 3 - 1 【院外処方】 院外薬局からの医薬品在庫不足に関する連絡の有無

ID	回答	件数	%
1	有	4184	74.0%
2	無	1470	26.0%
合計		5,654	100.0%

		N	有	無
全体		5,654	74.0%	26.0%
エリア	1_北海道・東北	461	73.5%	26.5%
	2_関東	1,983	79.5%	20.5%
	3_甲信越・北陸	461	77.2%	22.8%
	4_東海	576	68.1%	31.9%
	5_近畿	842	69.2%	30.8%
	6_中国・四国	296	70.6%	29.4%
	7_九州・沖縄	1,035	70.3%	29.7%
診療科 (上位)	内科	2,559	75.3%	24.7%
	循環器内科	146	82.9%	17.1%
	消化器内科 (胃腸内科)	226	74.3%	25.7%
	皮膚科	145	67.6%	32.4%
	小児科	480	92.3%	7.7%
	精神科	242	76.4%	23.6%
	外科	151	72.2%	27.8%
	整形外科	277	49.8%	50.2%
	眼科	189	19.6%	80.4%
	耳鼻いんこう科	333	92.5%	7.5%
	産婦人科	107	40.2%	59.8%



設問3-2 【院外処方】処方困難な医薬品名一覧（1489品目の上位品目）回答品目
延べ数は16623品目（1医療機関最大10品目まで回答可）

	内注外区分	医薬品名	件数	薬効分類名
1	内用薬	メジコン錠15mg	1304	鎮咳剤
2	内用薬	アスベリン錠20	687	鎮咳去たん剤
3	内用薬	フスコデ配合錠	531	鎮咳剤
4	注射薬	トルリシテ皮下注0.75mgアテオス	464	その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
5	内用薬	アストミン錠10mg	458	鎮咳剤
6	内用薬	ムコダイン錠500mg	399	去たん剤
7	内用薬	ムコダイン錠250mg	347	去たん剤
8	内用薬	アスベリン錠10	290	鎮咳去たん剤
9	内用薬	トリプタノール錠10	238	精神神経用剤
10	内用薬	フスタゾール糖衣錠10mg	214	鎮咳剤
11	内用薬	オーグメンチン配合錠250RS	208	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
12	内用薬	レスプレン錠20mg	201	鎮咳去たん剤
13	内用薬	PL配合顆粒	193	総合感冒剤
14	内用薬	カロナール細粒20%	189	解熱鎮痛消炎剤
15	内用薬	カフコデN配合錠	181	鎮咳剤
16	内用薬	クラバモックス小児用配合ドライシロップ	173	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
17	内用薬	レスプレン錠30mg	172	鎮咳去たん剤
18	内用薬	アスベリン散10%	161	鎮咳去たん剤
19	内用薬	トランサミン錠250mg	160	止血剤
20	内用薬	ワイドシリン細粒20%	140	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
21	内用薬	カロナール錠200	132	解熱鎮痛消炎剤
22	内用薬	ピーエイ配合錠	131	総合感冒剤
23	内用薬	カルボシステイン錠500mg「サワイ」	115	去たん剤
24	内用薬	ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）	115	漢方製剤
25	内用薬	フロモックス錠100mg	115	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
26	注射薬	オゼンピック皮下注2mg	111	その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
27	内用薬	メリアクトMS錠100mg	110	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
28	内用薬	メリアクトMS小児用細粒10%	109	主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
29	内用薬	ツムラ葛根湯エキス顆粒（医療用）	104	漢方製剤
30	外用薬	ホクナリンテープ1mg	103	気管支拡張剤

問題点の分析

- **院内処方**において回答のあった2,096品目の内、日薬連の「医薬品供給状況にかかる調査」においてメーカーが「通常出荷」として回答している品目は**670品目(32.2%)**あった。(左表)
- **院外処方**において回答のあった1,489品目の内、同様の調査でメーカーが「通常出荷」として回答している品目は**574品目(38.6%)**あった。(右表)
- 双方、漢方製剤が上位を占めているが、品目に大きな違いはない。
- トラネキサム酸錠250mg「YD」は同一成分の他社の品目が全て限定出荷になっている中、通常出荷となっていたが、アンケート結果では上位に挙がっている。

医薬品名	製造販売承認企業	製造販売業者の対応状況	集計
ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	51
ツムラ葛根湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	51
トラネキサム酸錠250mg「YD」	陽進堂	①通常出荷	50
ツムラ麦門冬湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	29
カルボシステイン錠250mg「ツルハラ」	鶴原	①通常出荷	22
デキストロメトルファン臭化水素酸塩錠15mg「ツルハラ」	鶴原	①通常出荷	17
ナウゼリン錠10	協和キリン	①通常出荷	15
グルカゴンGノボ注射用1mg	ノボ	①通常出荷	15
ヘパリン類似物質ローション0.3%「日医工」	帝國製薬	①通常出荷	11
ツムラの生薬バクモンドウ	ツムラ	①通常出荷	11

医薬品名	製造販売承認企業	製造販売業者の対応状況	集計
ツムラ芍薬甘草湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	115
ツムラ葛根湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	104
ツムラ麦門冬湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	57
トラネキサム酸錠250mg「YD」	陽進堂	①通常出荷	43
ツムラ防風通聖散エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	29
ツムラ小青竜湯エキス顆粒（医療用）	ツムラ	①通常出荷	26
ツムラの生薬バクモンドウ	ツムラ	①通常出荷	20
パセトシン細粒10%	サンドファーマ	①通常出荷	18
インスリン リスプロB S注ソロスター H U「サノフィ」	サノフィ	①通常出荷	18
カロナールシロップ2%	あゆみ	①通常出荷	14

- 今回のアンケート結果に、日薬連が現在実施している「医薬品供給状況にかかる調査(8月分)」の情報と付け合わせることで、供給状況の確認を行った。
- 全体の合計に加え「内用薬・注射薬・外用薬」、「先発品・後発品・長期収載品・基礎的医薬品」、「安定確保医薬品」別に限定出荷の原因の傾向を確認した。

全て	1. 需要増	2. 原材料調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の理由	総計
1メジコン錠15mg	600	0	0	0	0	0	0	0	600
2トルリシティ皮下注0.75mgアテオス	241	0	0	0	0	0	0	0	241
3オーグメンチン配合錠250RS	223	0	0	0	0	0	0	0	223
4PL配合顆粒	0	0	0	215	0	0	0	0	215
5フスコデ配合錠	205	0	0	0	0	0	0	0	205
6アストミン錠10mg	199	0	0	0	0	0	0	0	199
7アスベリン錠20	190	0	0	0	0	0	0	0	190
8ムコダイン錠250mg	184	0	0	0	0	0	0	0	184
9トランサミン錠250mg	157	0	0	0	0	0	0	0	157
10カロナル錠200	157	0	0	0	0	0	0	0	157

※準先発品は先発品に含めている。

➤ 内用薬における限定出荷原因

⇒ **去痰剤、鎮咳剤が上位を占めている。**

一部の製品を除き、原因は需要増によるものである。

内用薬+全製品区分	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1メジコン錠15mg	600	0	0	0	0	0	0	0	600
2オグメンチン配合錠250RS	223	0	0	0	0	0	0	0	223
3PL配合顆粒	0	0	0	215	0	0	0	0	215
4フスコデ配合錠	205	0	0	0	0	0	0	0	205
5アストミン錠10mg	199	0	0	0	0	0	0	0	199
6アスベリン錠20	190	0	0	0	0	0	0	0	190
7ムコダイン錠250mg	184	0	0	0	0	0	0	0	184
8トランサミン錠250mg	157	0	0	0	0	0	0	0	157
9カロナール錠200	157	0	0	0	0	0	0	0	157
10ムコダイン錠500mg	151	0	0	0	0	0	0	0	151

内用薬+先発&準先発	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1PL配合顆粒	0	0	0	215	0	0	0	0	215
2アストミン錠10mg	199	0	0	0	0	0	0	0	199
3セレスタミン配合錠	102	0	0	0	0	0	0	0	102
4SG配合顆粒	0	0	0	81	0	0	0	0	81
5レスプレン錠20mg	77	0	0	0	0	0	0	0	77
6ピタメジン配合カプセルB25	67	0	0	0	0	0	0	0	67
7アドナ錠30mg	50	0	0	0	0	0	0	0	50
8レスプレン錠30mg	50	0	0	0	0	0	0	0	50
9フェロベリン配合錠	39	0	0	0	0	0	0	0	39
10トランサミン錠500mg	39	0	0	0	0	0	0	0	39

内用薬+後発品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1カロナール錠200	157	0	0	0	0	0	0	0	157
2カロナール細粒20%	151	0	0	0	0	0	0	0	151
3クエン酸第一鉄Na錠50mg「サワイ」	0	0	0	0	0	0	0	92	92
4ビーエイ配合錠	91	0	0	0	0	0	0	0	91
5カルボシステイン錠250mg「サワイ」	87	0	0	0	0	0	0	0	87
6カルボシステイン錠500mg「サワイ」	83	0	0	0	0	0	0	0	83
7カルボシステイン錠250mg「JG」	71	0	0	0	0	0	0	0	71
8ニフェジピンCR錠20mg「サワイ」	67	0	0	0	0	0	0	0	67
9カルボシステイン錠250mg「トーワ」	65	0	0	0	0	0	0	0	65
10カロナール錠500	63	0	0	0	0	0	0	0	63

➤ 内用薬における限定出荷原因

⇒ 基礎的医薬品において**抗生剤が上位**を占めている。

内用薬+基礎的医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 オーゲメンチン配合錠250RS	223		0	0	0	0	0	0	223
2 メイアクトMS錠100mg	32		0	0	0	0	0	0	32
3 メイアクトMS小児用細粒10%	30		0	0	0	0	0	0	30
4 コナシン錠375mg	0		0	0	0	0	0	28	28
5 セフトレンピボキシル錠100mg「OK」	17		0	0	0	0	0	0	17
6 セフトレンピボキシル小児用細粒10%「OK」	12		0	0	0	0	0	0	12
7 ツムラの生薬バクモンドウ	0		0	0	0	0	11	0	11
8 セフトレンピボキシル細粒小児用10%「トーフ」	8		0	0	0	0	0	0	8
9 オーゲメンチン配合錠125SS	8		0	0	0	0	0	0	8
10 セフトレンピボキシル錠100mg「トーフ」	8		0	0	0	0	0	0	8

内用薬+長期取載品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ムコダイン錠250mg	184	0	0	0	0	0	0	0	184
2 ムコダイン錠500mg	151	0	0	0	0	0	0	0	151
3 アダラートCR錠20mg	128	0	0	0	0	0	0	0	128
4 ムコソルバン錠15mg	72	0	0	0	0	0	0	0	72
5 フロモックス錠100mg	72	0	0	0	0	0	0	0	72
6 セルベックスカプセル50mg	56	0	0	0	0	0	0	0	56
7 アダラートCR錠40mg	55	0	0	0	0	0	0	0	55
8 アダラートCR錠10mg	52	0	0	0	0	0	0	0	52
9 ロキシニン錠60mg	47	0	0	0	0	0	0	0	47
10 ナウゼリンOD錠10	45	0	0	0	0	0	0	0	45

➤ 注射剤における限定出荷原因

⇒数自体は内用薬に比べて少ないものの、薬効分類は多岐にわたる。

（その他のホルモン剤、抗生剤）、また**原因の大半は需要増であるものの、一部の品目で、品質トラブルが挙げられている。**

注射薬+全て	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 トルシテイ皮下注0.75mgアテオス	241	0	0	0	0	0	0	0	241
2 クロナーゼ静注用6万単位	0	65	0	0	0	0	0	0	65
3 キシロカイン注射液「1%」エピレナミン (1:100,000)含有	0	0	0	59	0	0	0	0	59
4 オゼンピック皮下注2mg	51	0	0	0	0	0	0	0	51
5 フイスタール配合点滴静注用1gバッグ	42	0	0	0	0	0	0	0	42
6 メロベナム点滴静注用0.5g「明治」	42	0	0	0	0	0	0	0	42
7 献血グロベニン-1静注用5000mg	40	0	0	0	0	0	0	0	40
8 マンジャロ皮下注5mgアテオス	38	0	0	0	0	0	0	0	38
9 マンジャロ皮下注2.5mgアテオス	37	0	0	0	0	0	0	0	37
10 献血ヴェノグロブリンIH10%静注 5g/50mL	37	0	0	0	0	0	0	0	37

注射薬+先発&準先発	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 トルシテイ皮下注0.75mgアテオス	241	0	0	0	0	0	0	0	241
2 クロナーゼ静注用6万単位	0	65	0	0	0	0	0	0	65
3 オゼンピック皮下注2mg	51	0	0	0	0	0	0	0	51
4 マンジャロ皮下注5mgアテオス	38	0	0	0	0	0	0	0	38
5 マンジャロ皮下注2.5mgアテオス	37	0	0	0	0	0	0	0	37
6 マキユイト眼注用40mg	0	0	0	24	0	0	0	0	24
7 フィニバック点滴静注用0.25g	17	0	0	0	0	0	0	0	17
8 マンジャロ皮下注7.5mgアテオス	0	0	0	0	0	0	0	16	16
9 エルネオバNF2号輸液	0	0	0	0	0	0	0	15	15
10 グルカゴンGノボ注射用1mg	0	0	0	0	0	0	15	0	15

⇒長期収載品、基礎的医薬品共に抗生剤が上位を占めている。

注射薬+後発品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ワイスター配合点滴静注用 1g パック	42	0	0	0	0	0	0	0	42
2 生食注シリンジ「NP」	31	0	0	0	0	0	0	0	31
3 ワイスター配合静注用 1g	29	0	0	0	0	0	0	0	29
4 オメプラゾール注射用 20mg「日医工」	28	0	0	0	0	0	0	0	28
5 ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用 100mg「サワイ」	23	0	0	0	0	0	0	0	23
6 ヘパリンNaロック用 10単位/mLシリンジ「オーツカ」10mL	0	0	0	0	0	0	0	22	22
7 生食注シリンジ「テルモ」10mL	0	0	19	0	0	0	0	0	19
8 ヌロベネム点滴静注用 0.5g「サワイ」	0	18	0	0	0	0	0	0	18
9 ヘパリンNaロック用 100単位/mLシリンジ「オーツカ」10mL	0	0	0	0	0	0	0	17	17
10 生食注シリンジ「オーツカ」10mL	0	0	0	0	0	0	0	17	17

注射薬+基礎的医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ヌロベネム点滴静注用 0.5g「明治」	42	0	0	0	0	0	0	0	42
2 献血ウェノグロブリンIH10%静注 5g/50mL	37	0	0	0	0	0	0	0	37
3 セフメタゾールNa静注用 1g「NP」	0	0	0	0	0	0	0	33	33
4 セフメタゾールナトリウム点滴静注用パック 1g「NP」	0	0	0	0	0	0	0	32	32
5 献血ウェノグロブリンIH10%静注 10g/100mL	19	0	0	0	0	0	0	0	19
6 注射用HCG 5,000単位「F」	0	18	0	0	0	0	0	0	18
7 ヌロベネム点滴静注用 0.5g「NP」	17	0	0	0	0	0	0	0	17
8 フルマリンキット静注用 1g	16	0	0	0	0	0	0	0	16
9 献血ベニロン-1静注用 5000mg	16	0	0	0	0	0	0	0	16
10 セフメタゾールナトリウム静注用 1g「日医工」	15	0	0	0	0	0	0	0	15

注射薬+長期収載品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 スルペラゾン静注用 1g	0	0	0	0	0	0	0	36	36
2 ロセフィン点滴静注用 1g パック	27	0	0	0	0	0	0	0	27
3 ヌロベン点滴用バイアル 0.5g	19	0	0	0	0	0	0	0	19
4 ヌロベン点滴用キット 0.5g	15	0	0	0	0	0	0	0	15
5 デノシン点滴静注用 500mg	0	0	0	15	0	0	0	0	15
6 バンスポリン静注用 1g	0	9	0	0	0	0	0	0	9
7 チエナム点滴静注用 0.5g	0	0	0	0	0	0	5	0	5
8 ミノマイシン点滴静注用 100mg	0	0	0	0	0	0	4	0	4
9 注射用タゴシッド 200mg	0	0	3	0	0	0	0	0	3
10 タキソール注射液 100mg	0	0	0	0	0	2	0	0	2

➤ 外用薬における限定出荷原因

⇒ 上記のほとんどがツロブテロールテープ製剤が占める。
その原因の大半は需要増である。

外用薬+全て	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ホクナリンテープ 1mg	65	0	0	0	0	0	0	0	65
2 ホクナリンテープ 0.5mg	43	0	0	0	0	0	0	0	43
3 ツロブテロールテープ 2mg「久光」	42	0	0	0	0	0	0	0	42
4 ホクナリンテープ 2mg	38	0	0	0	0	0	0	0	38
5 キシロカイン液「4%」	0	0	0	34	0	0	0	0	34
6 インタール吸入液 1%	32	0	0	0	0	0	0	0	32
7 ツロブテロールテープ 1mg「久光」	22	0	0	0	0	0	0	0	22
8 ツロブテロールテープ 0.5mg「久光」	11	0	0	0	0	0	0	0	11
9 ヘパリン類似物質ローション 0.3%「日医工」	0	0	0	0	0	0	11	0	11
10 ツロブテロールテープ 1mg「サワイ」	0	0	0	0	0	0	0	10	10

外用薬+先発&準先発	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ルティナス錠 100mg	0	0	0	9	0	0	0	0	9
2 オルセン軟膏 0.25%	0	9	0	0	0	0	0	0	9
3 エクレーンテープ 20µg/cm ²	8	0	0	0	0	0	0	0	8
4 ワンクリン錠用ゲル 90mg	0	0	5	0	0	0	0	0	5
5 アンヒバ坐剤小児用 100mg	0	0	0	0	0	0	4	0	4
6 エクソックゲル 5%	0	3	0	0	0	0	0	0	3
7 アンヒバ坐剤小児用 50mg	0	0	0	0	0	0	2	0	2
8 ヒーロンV眼粘弾剤 2.3%シリンジ 6mL	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9 ボラザG軟膏	0	0	0	0	0	0	2	0	2
10 アルビニー坐剤 200	0	0	0	0	0	0	2	0	2

外用薬+後発品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ツロブテロールテープ 2mg「久光」	42	0	0	0	0	0	0	0	42
2 ツロブテロールテープ 1mg「久光」	22	0	0	0	0	0	0	0	22
3 ヘパリン類似物質ローション 0.3%「日医工」	0	0	0	0	0	0	11	0	11
4 ツロブテロールテープ 0.5mg「久光」	11	0	0	0	0	0	0	0	11
5 プデソニド吸入液 0.25mg「武田テバ」	0	0	0	10	0	0	0	0	10
6 SPTローチ 0.25mg「明治」	0	0	0	0	0	0	10	0	10
7 ツロブテロールテープ 1mg「サワイ」	0	0	0	0	0	0	0	10	10
8 インドメタシンクリーム 1%「サワイ」	0	0	0	0	0	0	0	9	9
9 キシロカインボンブスプレー 8%	0	0	0	8	0	0	0	0	8
10 ツロブテロールテープ 2mg「日医工」	7	0	0	0	0	0	0	0	7

➤ 外用薬における限定出荷原因

⇒ **ツロブテロールテープ製剤が上位を占めている。**

外用薬+基礎的医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 マスキンR・エタノール液（0.5w/v%）							1	1	
2 バクトロバン鼻腔用軟膏2%							1	1	
3 オキシブプロカイン塩酸塩点眼液0.4%「ニットー」							1	1	
4 ゲンタマイシン硫酸塩軟膏0.1%「イウキ」							1	1	

外用薬+長期収載品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 ホクナリンテープ1mg	65	0	0	0	0	0	0	0	65
2 ホクナリンテープ0.5mg	43	0	0	0	0	0	0	0	43
3 ホクナリンテープ2mg	38	0	0	0	0	0	0	0	38
4 インタール吸入液1%	32	0	0	0	0	0	0	0	32
5 パルミコート吸入液0.25mg	3	0	0	0	0	0	0	0	3
6 カロナール坐剤100	0	0	0	0	0	0	2	0	2
7 ヒーロン眼粘弾剤1%シリンジ0.85mL	0	0	0	0	0	0	0	0	2
8 カロナール坐剤200	0	0	0	0	0	2	0	0	2
9 アンヒバ坐剤小児用200mg	0	0	0	0	0	2	0	0	2
10 デルモベート軟膏0.05%	0	0	0	0	0	1	0	0	1

- 安定確保医薬品における限定出荷原因
⇒ほとんどが安定確保医薬品「C」が該当している。
- ブスコパン（鎮痙剤）⇒見通しは不明。
- ウロナーゼ（線維素溶解酵素剤）⇒在庫消尽次第、欠品予定

全て+安定確保医薬品（A、B、C）	安定確保 医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル （製造委託を含む）	4. 品質トラブル （製造委託を含む）	5. 行政処分 （製造委託を含む）	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 トルリシティ皮下注0.75mg アテオス	C	241	0	0	0	0	0	0	0	241
2 カロナール錠200	C	157	0	0	0	0	0	0	0	157
3 カロナール細粒20%	C	151	0	0	0	0	0	0	0	151
4 アダラートCR錠20mg	C	128	0	0	0	0	0	0	0	128
5 ブスコパン錠10mg	C	0	0	109	0	0	0	0	0	109
6 ニフェジピンCR錠20mg「サイ」	C	67	0	0	0	0	0	0	0	67
7 ウロナーゼ静注用6万単位	B	0	65	0	0	0	0	0	0	65
8 カロナール錠500	C	63	0	0	0	0	0	0	0	63
9 アダラートCR錠40mg	C	55	0	0	0	0	0	0	0	55
10 アダラートCR錠10mg	C	52	0	0	0	0	0	0	0	52

内用薬+安定確保医薬品（A、B、C）	安定確保 医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル （製造委託を含む）	4. 品質トラブル （製造委託を含む）	5. 行政処分 （製造委託を含む）	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 カロナール錠200	C	157	0	0	0	0	0	0	0	157
2 カロナール細粒20%	C	151	0	0	0	0	0	0	0	151
3 アダラートCR錠20mg	C	128	0	0	0	0	0	0	0	128
4 ブスコパン錠10mg	C	0	0	109	0	0	0	0	0	109
5 ニフェジピンCR錠20mg「サイ」	C	67	0	0	0	0	0	0	0	67
6 カロナール錠500	C	63	0	0	0	0	0	0	0	63
7 アダラートCR錠40mg	C	55	0	0	0	0	0	0	0	55
8 アダラートCR錠10mg	C	52	0	0	0	0	0	0	0	52
9 カロナール錠300	C	51	0	0	0	0	0	0	0	51
10 ロキソニン錠60mg	C	47	0	0	0	0	0	0	0	47

<https://med.mochida.co.jp/etc/img/uk202306.pdf> 持田製薬HPより「ウロナーゼ静注用6万単位 供給についてのご案内 第5報」

2021年10月に製造した原薬の純度の指標である比活性が規格外となり、その後2022年8月にかけて承認事項の範囲内で考え得る全ての対応を行い、原薬を繰り返し製造してきましたが、いずれも規格外となり、規格に適合する原薬を確保できませんでした。一連の調査の結果、比活性が不適合となったロットでは、原薬の製造工程を通じた何らかの品質劣化が生じているものと判断しました。そのため、原薬の製造を再開するには原因の解明と製造方法の見直しが必要であると考えております。

➤ 安定確保医薬品における限定出荷原因

⇒ 注射剤では安定確保医薬品Aが多い。

⇒ 外用薬ではほとんどが安定確保医薬品「C」が該当している。

注射剤+安定確保医薬品（A, B, C）	安定確保 医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 トリシチ皮下注0.75mgアテオス	C	241	0	0	0	0	0	0	0	241
2 クロナーゼ静注用6万単位	B	0	65	0	0	0	0	0	0	65
3 ムロベナム点滴静注用0.5g「明治」	A	42	0	0	0	0	0	0	0	42
4 セフメタゾールNa静注用1g「NPJ」	A	0	0	0	0	0	0	0	33	33
5 セフメタゾールナトリウム点滴静注用バッグ1g「NPJ」	A	0	0	0	0	0	0	0	32	32
6 生食注シリンジ「NPJ」	C	31	0	0	0	0	0	0	0	31
7 オメプラゾール注射用20mg「日医工」	C	28	0	0	0	0	0	0	0	28
8 ロセフィン点滴静注用1gバッグ	B	27	0	0	0	0	0	0	0	27
9 ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用100mg「サワイ」	C	23	0	0	0	0	0	0	0	23
10 ヴェリンNaロック用10単位/mLシリンジ「オーツカ」10mL	C	0	0	0	0	0	0	0	22	22

外用剤+安定確保医薬品（A, B, C）	安定確保 医薬品	1. 需要増	2. 原材料 調達トラブル	3. 製造トラブル (製造委託を含む)	4. 品質トラブル (製造委託を含む)	5. 行政処分 (製造委託を含む)	6. 薬価削除	7. -	8. その他の 理由	総計
1 キシロカイン液「4%」	C	0	0	0	34	0	0	0	0	34
2 インタール吸入液1%	C	32	0	0	0	0	0	0	0	32
3 プデソニド吸入液0.25mg「武田テバ」	C	0	0	0	10	0	0	0	0	10
4 キシロカインボンブスプレー8%	C	0	0	0	8	0	0	0	0	8
5 キシロカイン点眼液4%	C	0	0	0	6	0	0	0	0	6
6 クロモグリク酸Na吸入液1%「サワイ」	C	0	0	0	0	0	0	0	5	5
7 プデソニド吸入液0.5mg「武田テバ」	C	0	0	0	0	0	0	0	4	4
8 アンヒバ坐剤小児用100mg	A	0	0	0	0	0	0	4	0	4
9 ヒアルロン酸Na0.7%眼粘弾剤1%「生化学」	C	3	0	0	0	0	0	0	0	3
10 ヒアルロン酸Na0.85%眼粘弾剤1%「生化学」	C	3	0	0	0	0	0	0	0	3

- 上位10品目において卸別の傾向を見た。
- 概ね卸の違いによるものは見受けられないものの、後発品に関しては卸のばらつきが見られた。おそらく、後発品は卸の帳合の強弱が影響しているものと思われ、安定供給への懸念が考えられる。
- 上位10品目の製剤製造所名は殆どが公開されていない。

*帳合(ちょうあい)とは、卸売・小売業界においては仕入れ・販売の取引関係のこと。特定の業者間で継続的な取引が行われている状態を「帳合取引」と呼ぶ。

	医薬品名	アルフレッサ	スズケン	メディセオ	地場卸 その他	東邦 薬品	総計	薬効分類名	製造販売業者の 出荷量の状況	製造販売 承認企業	製剤製造所
1	トルリシティ皮下注 0.75mg アテオス	58	49	53	57	24	241	その他のホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む。)	B. 出荷量減少	イーライリリー	—
2	カロナール錠200	32	23	37	40	25	157	解熱鎮痛消炎剤	A. 出荷量通常	あゆみ	—
3	カロナール細粒20%	31	32	38	28	22	151	解熱鎮痛消炎剤	A. 出荷量通常	あゆみ	—
4	アダラートCR錠 20mg	24	18	46	33	7	128	血管拡張剤	A. 出荷量通常	バイエル	—
5	ブスコパン錠10mg	26	14	30	33	6	109	鎮けい剤	B. 出荷量減少	サノフィ	—
6	ニフェジピンCR錠 20mg「サワイ」	18	7	16	22	4	67	血管拡張剤	A. 出荷量通常	沢井	①全星薬品工業、 ②全星薬品工業
7	ウロナーゼ静注用6万 単位	11	17	17	17	3	65	酵素製剤	B. 出荷量減少	持田	—
8	カロナール錠500	16	10	10	14	13	63	解熱鎮痛消炎剤	Aプラス。 出荷量増加	あゆみ	—
9	アダラートCR錠 40mg	11	7	19	15	3	55	血管拡張剤	A. 出荷量通常	バイエル	—
10	アダラートCR錠 10mg	16	11	12	9	4	52	血管拡張剤	A. 出荷量通常	バイエル	—

- 院外処方でも品目別の傾向の違いを分析した。
 （「限定出荷等の理由」「については項目が重複するため、ここでは品目のみ示し、院内時との違いを確認することとした）
- 院内処方と院外処方では、総数の違いはあるものの、多くの品目で重複する形となっている。内用薬が上位を占める形となっている。

	全品目	総数
1	メジコン錠 1 5 m g	1,304
2	アスピリン錠 2 0	687
3	フスコデ配合錠	531
4	トルリシチイ皮下注 0. 7 5 m g アテオス	464
5	アストミン錠 1 0 m g	458
6	ムコダイン錠 5 0 0 m g	399
7	ムコダイン錠 2 5 0 m g	347
8	アスピリン錠 1 0	290
9	トリプタノール錠 1 0	238
10	フスタゾール糖衣錠 1 0 m g	214

（参考）院内処方の場合の上位10品目

	全て	総計
1	メジコン錠 1 5 m g	600
2	トルリシチイ皮下注 0. 7 5 m g アテオス	241
3	オーグメンチン配合錠 2 5 0 R S	223
4	P L 配合顆粒	215
5	フスコデ配合錠	205
6	アストミン錠 1 0 m g	199
7	アスピリン錠 2 0	190
8	ムコダイン錠 2 5 0 m g	184
9	トランサミン錠 2 5 0 m g	157
10	カロナル錠 2 0 0	157

- 内用薬においては**去痰剤、解熱鎮痛剤が上位**を占めている。
- 院内処方と大きな違いはない。

	内用薬+全区分	総数
1	メジコン錠 15mg	1304
2	アスピリン錠 20	687
3	フスコデ配合錠	531
4	アストミン錠 10mg	458
5	ムコダイン錠 500mg	399
6	ムコダイン錠 250mg	347
7	アスピリン錠 10	290
8	トリプタノール錠 10	238
9	フスタゾール糖衣錠 10mg	214
10	オーグメンチン配合錠 250RS	208

	内用薬+先発品&準先発	総数
1	アストミン錠 10mg	458
2	レスブレン錠 20mg	201
3	PL 配合顆粒	193
4	クラバモックス小児用配合ドライシロップ	173
5	レスブレン錠 30mg	172
6	ツイミーグ錠 500mg	96
7	トランサミン錠 500mg	80
8	シダキュアスギ花粉舌下錠 2,000JAU	80
9	トランサミン散 50%	78
10	SG 配合顆粒	73

- 後発品、長期収載品においても、去痰剤、解熱鎮痛剤が上位を占めている。
- 基礎的医薬品では抗生剤が占めている。

	内用薬+長期収載品	総数
1	ムコダイン錠500mg	399
2	ムコダイン錠250mg	347
3	フロモックス錠100mg	115
4	セルベックスカプセル50mg	97
5	ムコソルバン錠15mg	92
6	ムコソルバンL錠45mg	85
7	アダラートCR錠20mg	78
8	ムコダインDS50%	77
9	サワシリン細粒10%	75
10	オゼックス細粒小児用15%	72

	内用薬+基礎的医薬品	総数
1	オーグメンチン配合錠250RS	208
2	メイアクトMS錠100mg	110
3	メイアクトMS小児用細粒10%	109
4	オーグメンチン配合錠125SS	29
5	ツムラの生薬バクモンドウ	20
6	ユナシン錠375mg	20
7	トミロン細粒小児用20%	14
8	コデインリン酸塩錠20mg「第一三共」	7
9	セフトゾンカプセル100mg	7
10	ツムラの生薬シャクヤク	7

	内用薬+後発品	総数
1	カロナール細粒20%	189
2	ワイドシリン細粒20%	140
3	カロナール錠200	132
4	ピーエイ配合錠	131
5	カルボシステイン錠500mg「サワイ」	115
6	カロナール錠500	85
7	カルボシステイン錠250mg「サワイ」	84
8	カロナール錠300	70
9	ワイドシリン細粒10%	68
10	カルボシステイン錠500mg「トーフ」	65

- 院外処方における注射薬について上位のほとんどが先発品が占める形となった。
（薬効分類で見ると「その他のホルモン剤」になる）
- 下表（「全区分と先発品」と「準先発品」）を比較してほぼ同じ品目であり、結果、注射薬の全体としても先発品が主であることが分かった。

	注射薬+全区分	総数
1	トルリシティ皮下注0.75mg アテオス	464
2	オゼンピック皮下注2mg	111
3	マンジャロ皮下注2.5mg アテオス	85
4	マンジャロ皮下注5mg アテオス	85
5	マンジャロ皮下注7.5mg アテオス	66
6	マンジャロ皮下注10mg アテオス	31
7	オゼンピック皮下注0.5mg SD	25
8	オゼンピック皮下注0.25mg SD	24
9	インスリン リスプロBS注ソロスター HU「サノフィ」	18
10	マンジャロ皮下注12.5mg アテオス	14

	注射薬+先発品&準先発品	総数
1	トルリシティ皮下注0.75mg アテオス	464
2	オゼンピック皮下注2mg	111
3	マンジャロ皮下注5mg アテオス	85
4	マンジャロ皮下注2.5mg アテオス	85
5	マンジャロ皮下注7.5mg アテオス	66
6	マンジャロ皮下注10mg アテオス	31
7	オゼンピック皮下注0.5mg SD	25
8	オゼンピック皮下注0.25mg SD	24
9	オゼンピック皮下注1.0mg SD	14
10	マンジャロ皮下注12.5mg アテオス	14

- 長期収載品、基礎的医薬品、後発品において抗生剤が多くを占めている一方、後発品では血液凝固阻止剤、他に分類されない代謝性医薬品、その他のホルモン剤等、回答は分かれた。

	注射薬+長期収載品	総数
1	メロペン点滴用キット0.5g	5
2	ロセフィン点滴静注用1gバッグ	4
3	メロペン点滴用バイアル0.5g	3
4	ミノマイシン点滴静注用100mg	3
5	ロセフィン静注用1g	2
6	スルペラゾン静注用1g	1
7	ピソルボン注4mg	1
8	ドルミカム注射液10mg	1
9	パンスポリン静注用0.25g	1

	注射薬+基礎的医薬品	総数
1	セファゾリンナトリウム注射用1g「日医工」	3
2	フルマリンキット静注用1g	3
3	注射用HCG5,000単位「F」	2
4	ゴナトロピン筋注用3000単位	2
5	メロベネム点滴静注用1g「N P」	2
6	セファメジンα注射用1g	1
7	ダラシンS注射液600mg	1
8	メロベネム点滴静注用0.5g「N P」	1
9	セフメタゾールNa静注用1g「N P」	1
10	ピクシリン注射用0.5g	1

	注射薬+後発品	総数
1	インスリン リスプロB S注ソロスター HU「サノフィ」	18
2	セフトリアキソンNa静注用1g「サワイ」	6
3	ヘパリンカルシウム皮下注5千単位/0.2mLシリンジ「モチダ」	4
4	ヘパリンNaロック用100単位/mLシリンジ「オーツカ」10mL	4
5	ヒアルロン酸Na関節注25mgシリンジ「明治」	4
6	グルタチオン注射用200mg「タイヨー」	4
7	メロベネム点滴静注用バッグ0.5g「明治」	2
8	インスリン グラルギンB S注ミリオペン「リリー」	2
9	インスリン リスプロB S注カート HU「サノフィ」	2
10	インスリン リスプロB S注100単位/mL HU「サノフィ」	2

➤ 外用薬において、ツロブテロールテープ製剤以外にも複数の品目が上位になったが、回答数自体は内用薬・注射薬と比較しても少ないものとなった。

外用薬+全区分	総数
1ホクナリンテープ1mg	103
2ホクナリンテープ0.5mg	75
3インター吸入液1%	66
4ホクナリンテープ2mg	60
5キシロカイン液「4%」	19
6ツロブテロールテープ0.5mg「久光」	16
7ツロブテロールテープ2mg「久光」	16
8ツロブテロールテープ1mg「久光」	14
9バルミコート吸入液0.25mg	12
10ヘパリン類似物質ローション0.3%「日医工」	10

外用薬+先発品&準先発品	総数
1エクラプラスター20μg/cm ²	7
2アルピニー坐剤100	5
3オルセノ軟膏0.25%	5
4エクロックゲル5%	4
5ルティナス錠100mg	4
6アンヒバ坐剤小児用100mg	3
7アドエア50エアゾール120吸入用	3
8ヒルドイドローション0.3%	2
9リレンザ	2
10ヒルドイドフォーム0.3%	1

外用薬+長期収載品	総数
1ホクナリンテープ1mg	103
2ホクナリンテープ0.5mg	75
3インター吸入液1%	66
4ホクナリンテープ2mg	60
5バルミコート吸入液0.25mg	12
6ミルタックスパップ30mg	3
7カロナル坐剤100	3
8バルミコート吸入液0.5mg	2
9アンヒバ坐剤小児用200mg	2
10ナウゼリン坐剤30	2

外用薬+基礎的医薬品	総数
1日点アトロピン点眼液1%	2
2イソジンガーグル液7%	2
3ポビドンヨードガーグル液7%「東海」	1
4ゲンタマイシン硫酸塩軟膏0.1%「イワキ」	1
5ポビドンガーグル7%	1
6ゲンタシンクリーム0.1%	1
7ピマリシン点眼液5%「センジュ」	1
8ネオメドロールE E軟膏	1

外用薬+後発品	総数
1ツロブテロールテープ0.5mg「久光」	16
2ツロブテロールテープ2mg「久光」	16
3ツロブテロールテープ1mg「久光」	14
4ヘパリン類似物質ローション0.3%「日医工」	10
5ツロブテロールテープ1mg「サワイ」	10
6SPTローチ0.25mg「明治」	9
7キシロカインポンプスプレー8%	8
8ブデソニド吸入液0.25mg「武田テバ」	7
9亜鉛華（10%）単軟膏「ヨシダ」	7
10ツロブテロールテープ0.5mg「サワイ」	5

- 院外処方において薬局名の明記があった回答の内、チェーン薬局か否かを分離した。
（調剤報酬等の基準を参考に20店舗を基準とした）
- 20店舗以上の薬局が相対的に少ない形となった。

		品目数/ 20店舗以上	品目数/ 20店舗未満	品目数 / 回答有薬局	品目数 / 全薬局
内用薬	先発品	148	564	712	1,712
	準先発品	59	222	281	696
	後発品	251	1,178	1,429	3,196
	長期収載品	206	920	1,126	2,794
	基礎的医薬品	47	211	258	629
	その他	388	1,758	2,146	5,786
	小計	1,099	4,853	5,952	14,813
外用薬	先発品	6	18	24	50
	準先発品		2	2	4
	後発品	15	75	90	180
	長期収載品	32	119	151	338
	基礎的医薬品	1	4	5	10
	その他	2	8	10	44
	小計	56	226	282	626

		品目数/ 20店舗以上	品目数/ 20店舗未満	品目数 / 回答有薬局	品目数 / 全薬局
注射薬	先発品	69	226	295	966
	後発品	1	13	14	91
	長期収載品		2	2	21
	基礎的医薬品		0		27
	その他		5	5	79
	小計	70	246	316	1,184
総計		1,225	5,325	6,550	16,623

➤ 区分と内外注によって薬効分類の違いが生じていることが示された。

全区分	合計 / 件数
主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	1,663
鎮咳剤	1,548
去たん剤	1,328
解熱鎮痛消炎剤	825
鎮咳去たん剤	753

内用薬全て	合計 / 件数
鎮咳剤	1,548
去たん剤	1,324
主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	848
解熱鎮痛消炎剤	805
鎮咳去たん剤	753

外用薬全て	合計 / 件数
気管支拡張剤	338
鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤	67
局所麻酔剤	49
眼科用剤	23
その他の消化器官用薬	21

注射薬全て	合計 / 件数
主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	814
その他のホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む。)	428
血液製剤類	159
局所麻酔剤	122
血液凝固阻止剤	117

先発品 & 準先発品	合計 / 件数
その他のホルモン剤 (抗ホルモン剤を含む。)	420
鎮咳剤	259
総合感冒剤	215
止血剤	145
鎮咳去たん剤	130

長期収載品	合計 / 件数
去たん剤	514
主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	327
血管拡張剤	246
気管支拡張剤	237
その他の消化器官用薬	112

基礎的医薬品	合計 / 件数
主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	683
血液製剤類	107
脳下垂体ホルモン剤	33
生薬	17
血液代用剤	8

後発品	合計 / 件数
去たん剤	809
解熱鎮痛消炎剤	629
主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	530
血管拡張剤	318
その他のアレルギー用薬	212

➤ 個別品目が目立つケースがある。

シオノギファーマ⇒メジコン、沢井⇒後発品全般、ニプロESファーマ⇒アスベリン、東和薬品⇒後発品全般、ニプロ⇒基礎的医薬品・後発品全般、となっている。

全体	合計 / 件数	先発 & 準先発	合計 / 件数	長期収載品	合計 / 件数	基礎的医薬品	合計 / 件数	後発品	合計 / 件数	その他	合計 / 件数
シオノギファーマ	1,103	イーライリリー	346	杏林	401	G S K	233	沢井	1,002	シオノギファーマ	778
沢井	1,044	シオノギファーマ	323	バイエル	238	MeijiSeika	140	東和薬品	675	ニプロESファーマ	691
ニプロESファーマ	825	オーファンパシフィック	200	ヴィアトリス	165	ニプロ	106	ニプロ	461	マイランEPD	368
東和薬品	693	太陽ファルマ	131	帝人ファーマ	129	日本血液製剤機構	76	あゆみ	451	第一三共	208
ニプロ	602	高田	102	協和キリン	121	ファイザー	35	日医工	383	ツムラ	201
日医工	551	アルフレッサファーマ	101	L T Lファーマ	100	大蔵	29	日本ジェネリック	198	サンドファーマ	174
あゆみ	478	ノボ	88	塩野義	98	K Mバイオロジクス	29	高田	156	日医工	139
マイランEPD	435	ニプロESファーマ	87	イーザイ	92	塩野義	28	鶴原	142	田辺三菱	125
杏林	408	サンファーマ	71	サノフィ	69	L T Lファーマ	25	武田テバファーマ	138	サノフィ	110
イーライリリー	348	第一三共	70	第一三共	64	日医工ファーマ	23	MeijiSeika	133	ファイザー	58
第一三共	342	持田	68	住友ファーマ	64	沢井	22	陽進堂	131	アルフレッサファーマ	56
MeijiSeika	288	武田テバ薬品	52	ファイザー	56	富士製薬	21	全星	115	武田	50
高田	280	住友ファーマ	50	サンファーマ	47	日医工	18	日医工岐阜	106	武田テバ薬品	41
G S K	278	日本ジェネリック	40	小野	47	アルフレッサファーマ	17	共和薬品	96	大峰堂	40
バイエル	239	大塚工場	38	科研	34	ツムラ	17	大塚工場	88	ヴィアトリス	39
日本ジェネリック	238	G S K	35	田辺三菱	33	東和薬品	16	久光	75	L T Lファーマ	36
サノフィ	233	塩野義	34	太陽ファルマ	32	あすか製薬	8	日医工ファーマ	65	ニプロ	35
ツムラ	218	日本新薬	32	キッセイ	30	持田	6	辰巳	61	住友ファーマ	34
オーファンパシフィック	215	富士フイルム富山化学	27	あゆみ	24	富士フイルム富山化学	4	マイランEPD	55	シオエ	33
アルフレッサファーマ	208	わかもと	24	富士フイルム富山化学	21	扶桑	4	第一三共エスファ	54	キッセイ	31

**適切な備蓄確保などの対応策や
感染時の企業の迅速な生産拡大などの
さまざまな方策を講ずることが必要である**

**医療機関や薬局などの状況をはじめ
製造業者から卸そして医療現場の流通状況についても
迅速かつ正確に把握できる仕組みが求められる**

**医療のあるべき姿と戦略を策定することを
国民・医療提供者・アカデミア・産業界・政府など
真摯に対話を進めることが重要**

**国は人間の安全保障として
医薬品を含めた医療に対して
より積極的な姿勢が望まれる**

ご清聴ありがとうございました